

ラトビア月報

【2014年6月】



2014年（平成26年）7月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【政治】

- ・護憲局，プロカ法相に国家機密取扱資格を付与せず（P. 1）
- ・「ラトビア国家の基礎」を定義する憲法前文の採択（P. 1）

【経済】

- ・レール・バルティカ計画，バルト三国が株主間契約文書に合意（P. 3）
- ・ラトビア南東部で豚コレラが発生（P. 3）

【外交】

- ・運輸・物流分野の年次国際会議の開催（P. 6）
- ・ストラウユマ首相のエストニア訪問（P. 6）

【日本との関係】

- ・ウシャコウス・リガ市長の神戸市訪問（P. 10）

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたものです。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。「在ラトビア日本大使館作成の資料によれば」といった引用は避けていただくようお願いいたします。

【今月の注目記事】

◆護憲局，ブロカ法相に国家機密取扱資格を付与せず

6月9日，ストラウユマ首相は，「護憲局」はブロカ法相に対して国家機密取扱資格を付与しない決定を下したと発表した。ブロカ法相は検事総長に対し不服を申し立てる予定（国家機密法により，国家機密取扱資格を付与されなかった場合，10日以内に検事総長に不服を申し立てることが可能。ブロカ法相は，「これを理由に法相を辞任するつもりはない。これは政治的陰謀である」と述べている。また，ストラウユマ首相もブロカ法相の辞任は求めないと述べた。

「護憲局」はラトビアの内閣府の下位機関で，閣僚等に対して国家機密取扱資格を付与するか否かを決定する権限を有する。ブロカ法相に対する審議は今年1月の内閣発足時に開始されたが，その決定が長引いていた。本件資格がない者は一部の閣議等に出席できず，ブロカ法相はこれまでも機密性の高い会議では出席者から除外されていた。

◆「ラトビア国家の基礎」を定義する憲法前文の採択

6月19日，国会は，憲法に「ラトビア国家の基礎」を定義した前文を追加する憲法改正案を可決した。前文には，「ラトビアのアイデンティティは，ラトビア人及びリーヴ人の伝統，ラトビアの民族的な知恵，ラトビア語，普遍的な人道的・キリスト教的価値によって形作られてきた。ラトビアへの忠誠心，唯一の国語であるラトビア語，自由，平等，連帯，正義，誠実，労働，道徳及び家族は，団結した社会の基盤である」などと記されている。

ロシア外務省は，「このような政治的偏見に基づいた文書は，ラトビアにおけるラトビア人の（少数民族に対する）特権を法的に強化する目的があることは明らかであり，社会のさらなる民族的分裂を引き起こすであろう」とのコメントを発表し，反論している。

◆ラトビアの人口，200万人を割る—中央統計局発表

6月6日にラトビア中央統計局が発表した人口動態統計によると，2014年5月末時点のラトビアの人口は1,997,500名で，1990年から25%減少した。

2013年にラトビア国外に移住した人口は22,561名で，うち73%が就労のため英国またはドイツへ，16%がCIS諸国に移住した。ラトビアへの移民数は8,299名で，うち58%がEU，31%がCIS諸国の出身であった。東部ラトガレ地方で人口減少が顕著であった一方，リガ及び南部ゼムガレ地方の一部では人口が増加した。

2013年の出生数1,000人あたり乳児死亡率は9.1で，前年の12.4より改善

したが、国際的に見てラトビアの乳児死亡率は高い。現在のラトビアの合計特殊出生率は1.44。

◆中央選管は第12回国会選挙の選挙区ごとの議席数を決定

6月10日、中央選管は第12回国会選挙の選挙区ごとの議席数を決定した。これによると、(全100議席中)リガ選挙区は32議席(前回選挙から2議席増)、ビッセメ選挙区は26議席(同1議席減)、ラトガレ選挙区は15議席、ゼムガレ選挙区は14議席(同1議席減)、クルゼメ選挙区は13議席が配分された。

◆ストラウユマ首相による安全保障報告書の発表

6月9日、内閣府は、ラトビアの安全保障に関するストラウユマ首相の年次報告書を国会へ提出した。同報告書の主な内容は以下の通り。

- ・ クリミアにおけるロシアの作戦は、ロシアが即応性の高い軍隊を発展させてきたことを示している。また、情報戦がロシアの軍事戦略の一部となってきた。
- ・ 2013年、ラトビアにおけるテロの脅威レベルはあまり変化せず、比較的低い水準を維持したが、将来的にテロの脅威を増加させ得る様々な要素が確認された。
- ・ ロシアの外交政策メカニズムは、いわゆる「同胞政策」であって、その公式な目標はロシア国民の支援・保護であるが、ロシアはこれらロシア国民による組織を外国における地政学的目標達成の手段として利用しようとしている。

◆国立図書館、オープン初日にエレベーターが故障

6月12日、新設された国立図書館の一部が一般公開された初日の午後1時過ぎ、同図書館のエレベーターが停止し、22人が閉じ込められる事件が発生した。すぐにレスキュー隊が出動し、ガラス板を割って乗客全員を救出した。

同図書館はラトビアがEU議長国となる2015年上半期にEU議長国としての会議、行事の会議場として用いられることが予定されている。オープン初日には約2千人が来場した。

◆1941年の国外追放犠牲者追悼記念式典の開催

6月14日、ベルズィンシュ大統領、アーボルティニャ国会議長、ストラウユマ首相等は1941年の国外追放犠牲者追悼記念式典に出席した。1941年6月14日、女性・子どもを含む約1万5千人ラトビアの人々がシベリアに強制的に追放された。

◆「統一」は国会選挙立候補者名簿の筆頭候補を発表

6月17日、「統一」は国会選挙の全5選挙区について、立候補者名簿の筆頭候補を発表した。これによると、リガ選挙区はリンケービッチ外相、ビッセメ選挙区はストラ

ウユマ首相、ゼムガレ選挙区はレイルス国会予算・財政（税金）委員長、クルゼメ選挙区はアーボルティニャ国会議長、ラトガレ選挙区はマティース運輸相となる。また、ストラウユマ首相は「統一」の次期首相候補として正式に指名された。

◆「緑と農民連合」は国会選挙立候補者名簿の筆頭候補を発表

6月21日報道によると、「緑と農民連合」は国会選挙立候補者名簿の筆頭候補を発表した。これによると、リガ選挙区はセルジャンツ国会議員、ビッセメ選挙区はドゥークラウス農業相、ゼムガレ選挙区はブリグマニス議員団長、クルゼメ選挙区はレイズニエツェ＝オーゾーラ国会教育文化科学委員会委員長、ラトガレ選挙区はベーヨニス国防相となる。

◆「統一」議員3名が離党

6月25日までに、「統一」の議員であるリーベナ氏及びクルスィーテ＝パクレ氏は「統一」を離党した。両者ともに「ナショナル・アライアンス」に入党する予定。

また、ブイキス氏も「統一」からの離党を表明した。同氏によると、「統一」の幹部は同氏に通知せずにテレビで「ブイキス議員は教育部門に戻ることを決定し、第12回国会選挙に立候補しない」と述べたが、同氏は「このような『統一』幹部の態度は侮辱的であり受け入れられない」と述べている。

— 経済 —

【今月の注目記事】

◆レール・バルティカ計画、バルト三国が株主間契約文書に合意

6月21日、タリンで開催されたレール・バルティカ計画に関する協議において、バルト三国の首相が同計画の合意書に署名し、合弁会社の設立に合意した。

協議では、争点となっていた鉄道ルートについて、ビリニュスをルートに含めて建設資金の支援をEUに対して要請することで合意した。合意書には、標準軌間である1435mm（西欧諸国と同じ）を採用すること、タリン～リガ～ペネベージュス～カウナスを経てリトアニア・ポーランド国境までの間を最高時速240kmで走行すること、カウナスとビリニュス間の支線ルートをEU基金への申請に追加することが記述されている。

◆ラトビア南東部で豚コレラが発生

6月22日、ラトビア南東部のダグダ地域（ベラルーシと国境を接する）の農場で豚コレラの発生が確認された。同農場の家畜は焼却処分された。食品・獣医局の職員によると、ダグダ地域では2013年以降、野生のイノシシに対して定期的に豚コレラワクチンが接種されているが、今年になって同地域で豚コレラが3件発生している。

その後、ラトビア東部ラトガレ地方でアフリカ豚コレラの発生が確認され、6月30日までに合計8頭のイノシシ及び3頭の家畜ブタからアフリカ豚コレラウイルスが確認された。

これを受け、アフリカ豚コレラの拡大を抑制するため、7月1日、政府はラトビア東部（ダウガウピルス、レーゼクネ等）において7月3日から10月14日まで非常事態を宣言することを閣議決定した。同地域においては人及び豚肉等の往来が制限される。

◆第1四半期の平均月収は742ユーロ

6月2日報道によると、中央統計局は、2014年第1四半期の平均月収は前年同期比で7.7%上昇し742ユーロとなったと発表した。

◆ラトビアの第1四半期のGDP成長率は対前期比0.7%増加

6月4日報道によると、Eurostat がラトビアの第1四半期のGDP成長率は対前期比0.7%増で、EU内で4番目に高い成長率となったと発表した。最も高い成長率はハンガリー及びポーランド：1.1%、デンマーク：0.9%、ドイツ及び英国：0.8%であった。また、エストニアはマイナス1.2%、リトアニアは0.6%の成長率であった。

◆第1四半期のGDP成長率は2.8%—中央統計局

6月9日にラトビア中央統計局が発表したデータによると、2014年第1四半期の名目GDPは53億ユーロで、実質GDP成長率は前年同期比2.8%であった。特に成長が著しかったのは建設（25%）、サービス（3.0%）、小売（2.6%増）の各分野。

◆5月のインフレ率は0.6%

6月9日にラトビア中央統計局が発表したデータによると、2014年5月の物価上昇率は対前年同期比0.6%であった（物品価格は0.1%低下、サービス価格は2.6%上昇）。過去12か月間の平均物価上昇率（対前年同期比）は0.1%。

◆国際格付機関による格付の引上げ

（1）S&Pがラトビアの信用格付けを引上げ

6月2日報道によると、格付け機関Standard & Poor's（S&P）は、ラトビアの長期債務に対する信用格付けをBBB+からA-に引き上げた。S&Pによると、今回の格上げは、ラトビア経済が予想を上回るペースで成長していることと、適切な財政政策を反映したものの。

（2）Moody'sがラトビア国債を格上げ

6月11日、国際格付機関 Moody's Investors Service は、ラトビア国債に対する格付を「Baa2」から「Baa1」に引き上げたと発表した。見通しは「安定的」。

本件に関しビルクス財務相は、「格上げの原因となったのは①ラトビア経済の堅調な成長、②財政状況の改善、良好な予算・債務状況、③ユーロの導入であり、過去数年間、EU加盟国の中で三大格付機関（Moody's, Fitch Ratings, Standard & Poor's）の格付が引き上げられたのはラトビアとスペインのみである」と述べた。

（3）「Fitch」がラトビアの信用格付を引上げ

6月20日、国際格付機関「Fitch ratings」は、ラトビアの外貨・自国通貨建て債務に対する長期信用格付を「BBB+」から「A-」に引き上げたと発表した。見通しは「安定的」。ビルクス財務相は本件に関し、「今回の信用の格上げは、ラトビアの経済成長、良好な国の財政状況及び公共財政環境の改善によるものである」と述べた。

「Fitch」は、2014年のラトビアのGDP成長率を3.6%、2015年の成長率を3.8%と予測している。

◆1月～5月の港湾の貨物取扱量が7.3%増加

6月12日報道によると、2014年1月～5月のラトビア国内の港湾における貨物取扱量は3,356万トンで、前年同期比で7.3%増加した。このうちリガ自由港の取扱量は1,704万トンで、前年同期比18.9%増。

◆ラトビアの一人あたりGDP（購買力平価）はEU平均の67%—Eurostat

6月18日に Eurostat が発表したデータによると、2013年のラトビアの一人あたりGDP（購買力平価）はEU平均の67%で、EU圏内で4番目に低い水準であった。一人あたり購買力GDPの最も低い国は順にブルガリア（EU平均の47%）、ルーマニア（同54%）、クロアチア（同61%）であった。

◆Ernst & Young, ラトビアのGDP予測を下方修正

6月20日報道によると、会計事務所「Ernst & Young」は最新の「Eurozone Economic Forecast」で、ラトビアの2014年のGDP成長率予測をこれまでの4.1%から3.4%に下方修正した。ロシアの経済・貿易状況の悪化とウクライナ危機が原因とされている。

◆ファーストフード・チェーン「Subway」がリガにオープン

6月27日報道によると、米国のファーストフード・チェーン「Subway」1号店がリガ旧市街にオープンした。「Subway」は1990年代後半にリガ旧市街に店舗を構えていたが、後に閉鎖された経緯がある。

◆ラツツ両替及び値段併記を終了

6月30日をもって、金融機関におけるラツツからユーロへの手数料なしの両替は終了した。また同日、小売店等での商品・サービスのユーロ及びラツツによる価格併記義務も終了した。今後もラトビア中央銀行においては手数料なしで無期限に両替が可能。

—外交—

【今月の注目記事】

◆運輸・物流分野の年次国際会議の開催

6月3日～4日の間、リガにおいて、運輸・物流分野の年次国際会議「Connecting Asia with Europe」が開催され、EU・中国間の運輸物流貿易網等に関して協議された。同会議には、リンケービッチ外相、マティース運輸相、翁猛勇(Weng Mengyong)中国交通運輸部副部長(次官)のほか、インド、ロシア、湾岸諸国、韓国、日本、トルコ、他のヨーロッパ諸国からの代表が出席した。

翁中国運輸次官は「中国・EU間の貿易量が拡大しているため、中国・EU間を結ぶ輸送網整備に関心がある、そのため中東欧諸国を対象とした資金提供を行う準備がある」旨述べた。

◆ストラウユマ首相のエストニア訪問(6月21日)

6月21日、ストラウユマ首相はエストニアを訪問し、ブトケビチュウス・リトアニア首相、ロイヴァス・エストニア首相、バローゾ欧州委員会委員長と会談し、2014～2020年のEU基金パートナーシップ合意(EU基金の効率的利用計画を規定する合意)、運輸・エネルギー分野等における地域プロジェクト、地域安全保障、ウクライナ情勢等について協議した。また、バローゾ欧州委員会委員長は各国首相とEU基金パートナーシップ合意にそれぞれ署名した。

この他、バルト三国の首相は、レール・バルティカ計画実施のためのプロジェクト会社設立に関する株主間契約文書に合意した。

◆ベルズインシュ大統領のポーランド訪問(6月3日～4日)

6月3日～4日の間、ベルズインシュ大統領はポーランド民主化25周年記念行事(4日)に出席するためポーランドを訪問し、3日の昼食会においてオバマ大統領、中東欧諸国首脳らとウクライナ情勢、エネルギー安全保障、NATOウェールズ・サミットの優先課題等について協議した。この際、ポロシェンコ新ウクライナ大統領とも会談し、ベルズインシュ大統領はウクライナの独立及び領土の一体性に支持を表明した。

◆イルヴェス・エストニア大統領の来訪(6月4日)

6月4日、イルヴェス・エストニア大統領はラトビアを訪問し、第6回アイザイア・バーリン（リガ生まれの哲学者）年次記念行事において「プライバシーと国家安全保障の対立」に関して演説した。同記念行事にはカジョーツィンシュ前護憲局長官やアイザイア・バーリン協会の名誉後援者であるフレイベルガ元大統領も出席した。

◆ストラウユマ首相のウクライナ訪問（6月7日）

6月7日、ストラウユマ首相はウクライナを訪問し、ポロシェンコ大統領の就任式に出席した。

◆バルト三国・ドイツにおける“Saber Strike 2014”共同軍事演習実施

6月9日～19日の間、バルト三国及びドイツにおいて共同軍事演習“Saber Strike 2014”が実施された。演習の目的は関係国間の協力関係改善。バルト三国、米国、英国、カナダ、ノルウェー、フィンランド等が演習に参加し、部隊員の合計数は約4,700名、戦車は約800台に達した。ラトビアからは約500名のラトビア軍部隊が演習に参加した。

◆ベルズィンシュ大統領のタジキスタン訪問（6月9日～11日）

6月9日～11日の間、ベルズィンシュ大統領（リンケービッチ外相、ドゥークラウス農業相、ベーヨニス国防相等同行）はタジキスタンを公式訪問し、10日、ラフモン・大統領、ズフロフ下院議長、ラスルゾダ首相等と会談し、二国間関係強化の可能性について協議した。また、関係者間でテロ・組織犯罪・麻薬に対する政府間協力合意、教育・科学分野における政府間協力協定、観光分野における政府間協力合意、国境警備に関する覚書が署名された。この他、ベルズィンシュ大統領はラトビア・タジキスタン・ビジネスフォーラムの開会式に出席した。

◆ベルズィンシュ大統領のモンゴル訪問（6月11日～13日）

6月11日～13日の間、ベルズィンシュ大統領（リンケービッチ外相、ドゥークラウス農業相等同行）はモンゴルを公式訪問し、12日、エルベグドルジ大統領、アルタンホヤグ首相、ゴンチグドリ国会副議長等とそれぞれ会談し、経済、運輸・物流、教育分野における二国間関係強化について協議した。ベルズィンシュ大統領は、両国は今年、外交関係樹立より20周年を迎えたと述べ、運輸・物流部門、食品産業における協力強化の可能性に言及した。

また、国際道路輸送に関する協定、外交・公用旅券保持者に対する査証免除協定等に署名した。その後、ベルズィンシュ大統領はラトビア・モンゴル・ビジネスフォーラムの開会式に出席した。

◆バルト三国国会外交委員会会合の開催

6月13日、バルト三国の国会外交委員会はリガで年次会合を開催した。EU東方パートナーシップに話が及んだ際、カルニンシュ・ラトビア国会外交委員長は、「EU東方パートナーシップの全ての国々をEUとより緊密にさせようとするアプローチは変更する必要がある。現在の地政学的状況においては地域の安全保障の強化が重要であるからだ」と述べた。

◆40名のラトビア軍部隊が中央アフリカに向けて出発

6月14日、40名のラトビア軍部隊がEU軍事ミッション参加のため中央アフリカに出発した。主な任務はバンギ空港の警備、同市への人道支援物資の配送確保、巡回警備等であり、同国に6か月間滞在する予定。

また、このミッションに必要な軍備品を中央アフリカに運搬するため、6月12日、世界最大の飛行機「An-225 Mriya」がリガに寄港した。

◆リンケービッチ外相のエストニア訪問（6月16日～17日）

6月16日～17日の間、リンケービッチ外相はエストニアを訪問し、年次のバルト三国・ドイツ外相会合に出席し、リンケビチュウス・リトアニア外相、パエト・エストニア外相、シュタインマイヤー・独外相とウクライナ情勢、NATOウェールズ・サミット、NATOのバルト三国における安全保障強化、欧州議会選挙後のEU等について協議した。また、4か国外相はウクライナ大統領の提案した和平計画に支持を表明し、ロシアのウクライナへの天然ガス供給停止を非難した。

◆アーボルティニャ国会議長のフィンランド訪問（6月16日～18日）

6月16日～18日の間、アーボルティニャ国会議長はフィンランドを公式訪問し、17日、ヘインルオマ国会議長、トゥオミオヤ外相とそれぞれ会談した。両国は二国間関係、ウクライナ情勢、ラトビアのEU議長国時の優先課題（東方パートナーシップ、中央アジア諸国との関係強化等）等について協議した。

18日、アーボルティニャ国会議長はFortum社（フィンランドのエネルギー会社で、去年、ラトビアでバイオマスを利用した発電所を開設した）を訪問し、ラトビアへの投資を呼びかけた。

◆ラトビアはウクライナ大統領の提案した和平計画を支持

6月20日、ラトビア外務省はポロシェンコ・ウクライナ大統領が提案した和平計画を支持するとの声明を発表した。同声明では、この計画はウクライナ政府が和平を求めている証拠であるとし、これにはロシアの建設的対応が不可欠であるため、プーチン大統領にウクライナ情勢正常化に向けて最大限努力するよう要請している。

◆イルヴェス・エストニア大統領の来訪（6月22日～23日）

6月22日～23日、イルヴェス・エストニア大統領はツェーシス（リガの北東約70キロ）を訪問し、22日、ベルズインシュ大統領と共にツェーシスの戦い（1919年にエストニア軍・ラトビア軍がツェーシス近郊においてドイツ軍に勝利した戦い）95周年記念式典に出席した。

また、23日、両者はバルカ及びバルガ（リガの北東約150キロにあるラトビア・エストニア国境にある街）を訪問し、ツェーシスの戦い95周年記念軍事パレードに参加した。

◆ラトビア人ジャーナリストの判決に対するラトビア外務省の声明

6月23日、エジプトの裁判所がオーストラリアとラトビアの二重国籍者であるペーテリス・ゲステ氏（アルジャジーラのジャーナリスト）に7年の禁固刑を言い渡したことに對し、ラトビア外務省は遺憾の意を表明し、控訴した際にエジプトの裁判所が同判決を覆し、エル＝スィスィ・エジプト大統領が言論の自由を保障することを信じていると述べた。

その後、26日、リンケービッチ外相はビショップ・オーストラリア外相とゲステ氏について電話会談を行い、両者はエジプトに對し更なる働きかけを行うことで一致した。

◆リンケービッチ外相のEU外務・総務理事会出席（6月23日～24日）

6月23日～24日の間、リンケービッチ外相はルクセンブルクを訪問し、23日、EU外務理事会に出席した。EU外相とクリムキン・ウクライナ外相との会談の際、リンケービッチ外相はポロシェンコ・ウクライナ大統領の提案した和平計画に支持を表明した。この他、EU外相はイラク、リビア、シリア、エジプト情勢等について協議した。また、23日に有罪判決を受けたアル・ジャジーラのジャーナリスト（オーストラリア及びラトビアの二重国籍者であるペーテリス・ゲステ氏を含む）に関しても言及した。

24日、リンケービッチ外相はEU総務理事会に出席し、EU外相は26～27日の欧州理事会の準備に関して協議し、次期EU議長国トリオ（イタリア、ラトビア、ルクセンブルク）の18か月計画を承認した。また、アルバニアにEU加盟候補国のステータスを付与することを決定した。

◆リンケービッチ外相のNATO外相会合出席（6月24日～25日）

6月24日～25日の間、リンケービッチ外相はブリュッセルを訪問し、NATO外相会合に出席した。同会合ではNATOウェールズ・サミットの準備、NATO拡大、アフガニスタン情勢等に関して協議した。リンケービッチ外相はNATOウェールズ・サミットにおいて、NATO軍のバルト三国駐留を恒久化するよう決定する必要性を強調した。

◆スト라우ユマ首相の欧州理事会出席（６月２６日～２７日）

６月２６日～２７日の間、スト라우ユマ首相はベルギーを訪問し、欧州理事会に出席した。理事会では今後５年間のＥＵの優先課題（雇用、成長、競争力強化、エネルギー連合設立等）について協議し、ユンカー前ルクセンブルク首相を欧州委員会委員長候補として擁立することを決定した。また、ウクライナ、グルジア、モルドバと連合協定に署名し、スト라우ユマ首相はラトビアのＥＵ議長国時における優先課題の一つは東方パートナーシップであるため、この署名は非常に重要であると説明した。

欧州理事会に先立ち、ＥＵ外相はイーブル（ブリュッセルの西約１００キロ）を訪問し、第一次世界大戦開戦１００周年記念式典に出席した。

◆ナルバンジャン・アルメニア外相の来訪（６月２６日～２７日）

６月２６日～２７日の間、ナルバンジャン・アルメニア外相はラトビアを訪問し、２６日、アーボルティニャ国会議長、２７日、リンケービッチ外相とそれぞれ会談した。両国は二国間関係、東方パートナーシップを含むラトビアのＥＵ議長国の優先課題等に関して協議し、ラトビア側はアルメニアがＥＵとの連合協定に署名しないアルメニアの選択を尊重すると述べた。

◆リンケービッチ外相のイタリア訪問（６月２９日～３０日）

６月２９日～３０日の間、リンケービッチ外相はイタリアを訪問し、３０日、モゲリーニ・イタリア外相と会談を行った。会談では、二国間関係、ＥＵ議長国トリオ時の協力及び優先課題（経済成長・雇用拡大等）に関して協議した。その後、更にアセルボーン・ルクセンブルク外相も含めた三者会談をそれぞれ行い、ＥＵ議長国トリオ時の協力及び優先課題、ウクライナ情勢、対露関係、ＮＡＴＯウェールズ・サミット、エネルギー問題、ＥＵ拡大等に関して協議した。リンケービッチ外相はロシアと交渉する際、ＥＵの意見を統一する必要性を指摘した。

—日本との関係—

【今月の注目記事】

◆ウシャコウス・リガ市長の神戸市訪問

６月１２日～１４日、ウシャコウス・リガ市長は神戸市を訪問し、１２日に、久元神戸市長と会談し、両市の動物園協力協定に署名した。同日未明、１９９６年にラトビアから神戸市の動物園に贈られた母親ゾウ「ズゼ」が子どもを出産していた。その後、神戸市における「リガ展」開会式に出席した。

１３日、ウシャコウス市長は神戸市内を視察し、神戸市混声合唱団とリガ室内合唱団

「Ave Sol」によるジョイント・コンサートを鑑賞した。14日には、ラトビア映画「AMAYA」の上映会と、この映画の監督を務めたマーティンソンス氏及び主演女優である桃井かおり氏のトークショーが行われた。

リガ市と神戸市は今年、姉妹都市提携40周年を迎える。

◆リガで書道展を開催

6月9日から13日にかけて、日本大使館が入居するリガのRietumu Bankビルの1階ギャラリーにて、日本書道美術院審査員であり、国内外で多数の受賞経験のある竹前磧齋氏の書道作品の展示会が開催された。連日、多くの来場者があり、ラトビアでは見る機会の少ない書道作品一つ一つを丁寧に鑑賞していた。また、来場者は、作品の意味、使用する道具、紙の種類等、書道に関して高い関心を示していた。

◆「Japan Cultural Days」の開催

6月7日～9日の間、リガ市内で日本文化を紹介するイベント「Japan Cultural Days」がラトビア剣道協会と日本大使館の共催で開催された。日本からは、剣道、居合道、薙刀、杖道、柔術、書道、能、日本舞踊、囲碁といった幅広い武道、芸術分野から47名もの専門家が来訪し、指導やデモンストレーションを行った。8日には剣道の国際大会「Yumura Cup」が欧州各国からの参加を得て開催された。

◆ベーツピルスで写真展「戦後日本の変容」を開催

6月21日～7月30日まで、ラトビア西部の港町ベーツピルスのベーツピルス博物館にて、同博物館と日本大使館及び国際交流基金の共催で、戦後日本の写真界を代表する11名の写真家によるモノクロ写真約123点を展示し、戦後日本の姿と同時代の写真美術のダイナミックな変遷を紹介するデザイン展が開催されている。

—その他—

◆クラフト・マーケットの開催

6月7日から8日にかけて、リガの野外博物館で毎年恒例のクラフト・マーケットが開催され、ラトビア各地から集まった2,000名以上の職人による布製品、木工品、琥珀製品などの手工芸品の数々が訪れた客を魅了した。

◆ウィンブルドンでラトビアの選手が活躍

6月23日、テニスの4大国際大会であるウィンブルドン世界選手権が開幕した。ラトビアからは、世界ランキング10位のグルビス（Ernestas Gulbis）選手が男子シングルの第12シードで出場した。23日に行われた初戦ではエストニアのゾップ選手

(世界ランキング275位)にストレートで勝利したが、25日の二回戦、ウクライナのスタコウスキー選手(同90位)にストレート負けし、敗退した。

◆リガでの夏至祭に約8万人が参加

6月23日の夜から24日の朝にかけて、ラトビア各地で夏至祭「Līgo!」の祝賀行事が行われた。リガのダウガヴァ川沿いでのイベントではライモンズ・パウルス元文化大臣ほか、人気歌手・俳優らがパフォーマンスを行い、約8万人が参加した。

以上

2014年6月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日		
2日		
3日	運輸・物流分野の年次国際会議「Connecting Asia with Europe」の開催（～4日）	ベルズィンシュ大統領ポーランド訪問（～4日）
4日		イルヴェス・エストニア大統領来訪
5日		
6日		
7日		ストラウユマ首相ウクライナ訪問
8日		
9日	護憲局、プロカ法相に国家機密取扱資格を付与しないことを決定	バルト三国・ドイツにおける共同軍事演習「Saber Strike 2014」の実施（～19日） ベルズィンシュ大統領タジキスタン訪問（～11日）
10日		
11日		ベルズィンシュ大統領モンゴル訪問（～13日）
12日		ウシャコウス・リガ市長の訪日（～14日、神戸市）
13日		
14日	1941年の国外追放犠牲者追悼記念式典の開催	
15日		
16日		リンケービッチ外相エストニア訪問（～17日） アーボルティニヤ国会議長フィンランド訪問（～18日）
17日		
18日		
19日	国会、「ラトビア国家の基礎」を定義する前文を付与した改正憲法を採択	
20日		
21日		ストラウユマ首相エストニア訪問、バルト三国がレール・バルティカ計画の株主間契約文書に合意
22日		イルヴェス・エストニア大統領来訪（～23日）
23日		リンケービッチ外相EU外務理事会出席（～24日）
24日		リンケービッチ外相EU総務理事会出席 リンケービッチ外相NATO外相会合出席（～25日）
25日		
26日		ストラウユマ首相欧州理事会出席（～27日） ナルバンジャン・アルメニア外相来訪（～27日）
27日		
28日		
29日		リンケービッチ外相イタリア訪問（～30日）
30日		

ラトビア主要経済指標

ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した(1ユーロ≒140円)

GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
名目GDP	百万ユーロ	22,886	18,598	18,190	20,312	22,083	23,315	5,957	中央統計局
国民一人当たりGDP	ユーロ	10,509	8,682	8,673	9,866	10,859	11,575	2,668	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 2.8	▲ 17.7	▲ 1.3	5.3	5.2	4.1	-	Eurostat

財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
財政収支	百万ユーロ	▲ 1,001	▲ 1,693	▲ 1,479	▲ 718	▲ 303	▲ 212	▲ 134	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.4	▲ 9.1	▲ 8.1	▲ 3.5	▲ 1.4	▲ 0.9	-	中央統計局
政府債務残高	百万ユーロ	4,534	6,870	8,096	8,527	9,013	8,873	8,993	中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.9	44.5	42.0	40.8	38.1	-	中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
失業率	%	6.0	13.2	14.5	12.0	11.4	9.0	9.1	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4	2.3	0.0	0.3	中央統計局
平均賃金(グロス)	ユーロ	682	655	633	660	685	716	756	中央統計局
平均賃金(ネット)	ユーロ	498	486	450	470	488	516	555	中央統計局

海外直接投資(FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
海外直接投資残高	百万ユーロ	8,126	8,073	8,184	9,360	10,258	11,472	11,425	中央銀行

貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
輸出(FOB)	百万ユーロ	6,302	5,126	6,680	8,535	9,871	10,001	2,391	中央統計局
輸入(CIF)	百万ユーロ	10,711	6,701	8,412	10,983	12,512	12,568	2,940	中央統計局
貿易収支	百万ユーロ	▲ 4,409	▲ 1,575	▲ 1,732	▲ 2,448	▲ 2,641	▲ 2,567	▲ 549	中央統計局

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
日本への輸出	千ユーロ	21,870	25,035	33,634	34,792	34,616	44,372	10,186	中央統計局
日本からの輸入	千ユーロ	27,369	8,667	7,463	16,975	14,049	12,050	2,941	中央統計局
対日貿易収支	千ユーロ	▲ 5,499	16,368	26,171	17,817	20,567	32,322	7,245	中央統計局

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
ラトビアへの輸出	百万円	6,693	2,043	3,458	4,050	4,908	5,054	1,074	財務省統計
ラトビアからの輸入	百万円	3,599	3,696	4,609	4,587	8,761	6,658	1,609	財務省統計
対ラトビア貿易収支	百万円	3,094	▲ 1,653	▲ 1,151	▲ 537	▲ 3,853	▲ 1,604	▲ 535	財務省統計

両国間の訪問者数

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	出典
ラトビア→日本	人	1,296	865	875	495	807	1,111	-	日本入管統計
日本→ラトビア(宿泊統計)	人	6,043	6,690	5,428	5,843	7,322	8,988	-	中央統計局